

# サウジアラビア

2020年10月22日  
海外調査部・リヤド事務所

## ■石油部門が不振、全体で低成長にとどまる

2019年のサウジアラビア経済は、非石油部門の実質GDP成長率が3.3%と2015年以来4年ぶりに高い数値を記録したものの、石油部門がマイナス3.7%となったことが押し下げ要因となり、全体で0.3%の低い成長率にとどまった。5月のアラビア湾沖でのサウジ籍船攻撃やリヤド市郊外の石油パイプライン攻撃などの事案が立て続けに複数発生したことで、一時は油価が上昇したが、世界的な原油需要の伸び悩みもあり、6月に発生したホルムズ海峡沖での石油タンカー攻撃では上昇せず、年間を通じて前年より低い水準で推移した。9月に発生した国営石油会社サウジアラムコの石油施設攻撃により、日量570万バレルの石油生産が一時停止したことも、石油部門の不振の一因となった。

2019年の財政支出実績は、歳入9,268億サウジ・リヤル（以下、リヤル）、歳出1兆594億リヤルと6年連続での財政赤字となった。財務省は2020年5月に、第1四半期の財政収支が341億リヤルの赤字となったことを発表。3月以降、サウジアラビアでも新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化し、それに伴う経済活動の停滞や企業への財政支援拡大、油価の低迷による収入減などで、2020年の最終赤字幅も拡大見込みとなっている。

## ■油価低迷で輸出減少、輸入は自動車が増

2019年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比11.2%減の9,806億8,500万リヤル、輸入が5.3%増の5,412億5,500万リヤルとなった。貿易黒字が続く構造は変わらないが、黒字幅は4,394億3,000万リヤルで25.5%の減少となった。

サウジアラビアからの輸出を品目別にみると、最大の構成比（77.7%）を占める鉱物資源・同製品が前年比12.6%減となった。2018年と比較して年間平均油価（アラビアン・ライト）が7.8%の下落となったことや、主要国向け原油輸出量の減少が起因した。同じくサウジアラビアが強みを持つプラスチック・ゴム・同製品と化学製品も、軒並み減少した。

他方で、輸入は多くの品目で増加したが、特に自動車・航空機部品などからなる車両・航空機・船舶等輸送機器が前年比25.1%増と大きく伸びて全体を牽引した。

輸出を国別にみると、中国が前年比22.5%増で2018年に続き1位となった。相手国側の統計で見ると、中国のサウジアラビアからの輸入額に占める原油の割合は73.9%にとどまり、9割を超える日本や韓国ほど高くないが、2019年の輸入量が46.9%増と大きく増加したため、輸入額全体を押し上げた。インドは、原油の輸入額は1.7%減と微減したものの、原油に次ぐ品目のリン酸アンモニウムが6.8%増となったこともあり、日本を抜いて2位となった。3位の日本、4位の韓国、5位の米国は、サウジアラビアからの原油輸入量がそれぞれ8.5%減、7.8%減、43.4%減といずれも減少したため、輸入額の

表1 サウジアラビアの主要品目別輸出入〈通関ベース〉

(単位：100万サウジ・リヤル、%)

輸出 (FOB)					輸入 (CIF)				
	2018年	2019年				2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
鉱物資源・同製品	872,030	761,938	77.7	△12.6	機械類・電気機器・同部品	111,167	117,179	21.6	5.4
プラスチック・ゴム・同製品	79,667	72,649	7.4	△8.8	車両・航空機・船舶等輸送機器	84,652	105,870	19.6	25.1
化学製品	75,455	68,409	7.0	△9.3	化学製品	51,716	52,576	9.7	1.7
車両・航空機・船舶等輸送機器	15,381	17,492	1.8	13.7	卑金属・同製品	43,988	47,199	8.7	7.3
卑金属・同製品	20,645	16,838	1.7	△18.4	食料品・飲料・酢・たばこ類	25,635	26,358	4.9	2.8
機械類・電気機器・同部品	11,901	11,918	1.2	0.1	野菜類	32,996	27,239	5.0	△17.4
生きた動物・動物性生産品	6,058	5,669	0.6	△6.4	合計 (その他含む)	513,993	541,255	100.0	5.3
食料品・飲料・酢・たばこ類	5,470	5,742	0.6	5.0					
合計 (その他含む)	1,103,900	980,685	100.0	△11.2					

[出所] 経済企画省総合統計庁

表2 サウジアラビアの主要国別輸出入〈通関ベース〉

(単位：100万サウジ・リヤル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2018年	2019年				2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	146,703	179,653	18.3	22.5	中国	81,821	101,500	18.8	24.1
インド	98,689	102,582	10.5	3.9	米国	70,642	63,984	11.8	△9.4
日本	124,646	100,102	10.2	△19.7	UAE	43,441	38,867	7.2	△10.5
韓国	97,592	77,901	7.9	△20.2	ドイツ	28,306	26,264	4.9	△7.2
米国	95,622	50,189	5.1	△47.5	日本	20,590	24,547	4.5	19.2
合計 (その他含む)	1,103,900	980,685	100.0	△11.2	合計 (その他含む)	513,993	541,255	100.0	5.3

[出所] サウジアラビア通貨庁 (SAMA)

落ち込みに影響した。

国別の輸入では、1位の中国の好調ぶりが目立った。中国の対サウジアラビア向け輸出の最大品目である機械類のうち、47.9%を占める携帯電話が金額ベースで前年比14.3%増となったほか、乗用車が全体で2.8倍となった。中でも1500cc超3000cc以下の中型車が金額で2.4倍、1000cc超1500cc以下の小型車が4.1倍と、中国車の市場への流入が著しい。新たに5位に入った日本も、主力品目の自動車が乗用車・商用車ともに大きく伸びたことで、中国とともに金額ベースで前年比増となった。他方で、2位の米国は航空機部品 (31.8%増)、ガスタービン部品 (76.3%増) などが金額ベースで伸びたものの、自動車では3000cc超の大型車が5.5%減、1500cc超2000cc以下の中型車が21.5%減、1000cc超1500cc以下の小型車が45.3%減と、いずれも振るわなかったことがサウジ向け輸出額の減少に影響した。4位のドイツは、機械類の主要品目である遠心分離機、コック・弁、気体ポンプ、真空ポンプがいずれも前年比減となり、機械類全体で7.4%減となった。また、10人以上用の自動車が2.7倍、3000cc超の大型車が15.6%増と健闘し、自動車全体では17.7%増と貢献したものの、サウジ向け輸出額は前年比減となった。

## ■対内直接投資額は横ばいも、ライセンス供与数は過去最多

2019年の対内直接投資額 (国際収支ベース、ネット、フロー) は、前年比7.4%増の171億1,000万リヤルと前年とほぼ同じ水準となった。政府は、2018年12月には不動産仲介業、オーディオ・ビジュアル

ル分野等を新たに外国企業100%出資可能業種に追加したほか、2019年1月にビジネス環境改善を目的とした省庁横断的組織を刷新するなど、引き続き外資の呼び込みに積極的だ。投資省の発表によると、2019年に外国企業に供与した投資ライセンスは1,131件で、前年から395件増と過去最多を記録した。国別ではインドが最多の140件で、英国100件、エジプト92件、米国82件、ヨルダン71件と続き、中国は47件、韓国は16件だった。業種別では建設業が193件（82件増）、製造業が190件（57件増）、ITが178件（67件増）となり、IT分野は前年に続き上位に立った。投資案件には、中国のパン・アジアによるジャザーン州の高純度テレフタル酸製造プラント建設（約10億ドル）、韓国のGL Raphaによるバイオ医薬品製造（3億2,000万ドル）、デンマークのユニビオによる天然ガスを利用した家畜用タンパク飼料製造事業（2億ドル）、フランスのオプティマム・トラッカーと地場企業による太陽光エネルギー分野の合弁事業（5,300万ドル）などが含まれている。

他方で、対外直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比28.7%減の515億400万リヤルとなったが、サウジアラビアのソブリン・ウエルス・ファンドである公共投資基金（PIF）は対外ポートフォリオ投資を積極的に行っており、2019年の同投資額は27.6%増と大きく伸びた。2020年第1四半期（暦年）にも、コロナ禍が始まりつつあった米国、欧州の著名企業の総額100億ドル超相当の株式を相次いで取得したことが報じられている。

## ■日本からの輸出は自動車牽引

日本の「貿易統計（通関ベース）」をドル換算すると、サウジアラビア向け輸出は51億1,100万ドル（前年比24.3%増）となり、前年に続き増加した。輸出の6割を占める自動車が大きく伸びたことが影響したが、中でも大宗を占める乗用車のうち、1500cc超3000cc以下の中型車が金額ベースで34.1%増、数量ベースで27.0%と大きく伸びたほか、商用車では10人以上用自動車金額ベースで3.9倍、5トン以下のトラックが2.4倍、20トン以上のトラックが4.9倍と顕著な伸びを示した。

表3 日本の対サウジアラビア主要品目別輸出入（通関ベース）

（単位：100万ドル、%）

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2018年	2019年				2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	2,476	3,310	64.8	33.7	鉱物性燃料	32,543	26,686	96.6	△ 18.0
自動車	2,305	3,080	60.3	33.6	原油および粗油	31,200	26,013	94.2	△ 16.6
乗用車	2,010	2,582	50.5	28.5	化学製品	744	454	1.6	△ 39.0
バス・トラック	293	496	9.7	69.2	有機化合物	531	307	1.1	△42.1
自動車の部品	156	218	4.3	40.0	原料別製品	249	253	0.9	1.6
一般機械	412	517	10.1	25.5	非鉄金属	248	249	0.9	0.4
原動機	101	109	2.1	7.9	合計（その他含む）	33,756	27,625	100.0	△ 18.2
ポンプ・遠心分離機	128	161	3.2	26.2					
荷役機械	39	45	0.9	16.0					
加熱用・冷却用機器	14	42	0.8	208.9					
原料別製品	681	732	14.3	7.6					
鉄鋼	344	284	5.6	△17.6					
ゴム製品	162	212	4.2	31.4					
電気機器	176	175	3.4	△0.3					
合計（その他含む）	4,112	5,111	100.0	24.3					

〔出所〕財務省「貿易統計」（通関ベース）をドル換算

サウジアラビアからの輸入は276億2,500万ドル（前年比18.2%減）となった。輸入額の94.2%を占める原油および粗油が金額（16.6%減）、輸入量（8.5%減）ともに減少したためだが、年間を通じた原油価格の低迷により、金額での落ち込み幅が大きくなった。

## ■日本企業初のトラック販売代理店誕生

2020年6月時点の進出日系企業数は99社（代理店への駐在員派遣を含む。ジェトロ調べ）。新規の法人設立案件としては、豊田通商が地場大手財閥のジャムジムグループと組み、日本企業として初となる日野自動車のトラック販売代理店を設立した。進出案件以外では、2019年7月に山九サウジアラビアが、東部州アルジュベイル工業団地内の石油化学プラントにおける保全作業を受注したほか、東レが2019年10月、ジェッダ近郊のシュアイバ第3海水淡水化プラント増設2期およびシュアイバ第4海水淡水化プラント向けに逆浸透（RO）膜の納入を受注した。また、NECが 聖地メッカのバス運行会社モダンバスから、交通用ICカードを利用した高度交通運用管理システムを受注したことに加え、食品分野では尾西食品が、イスラム教の巡礼時期に合わせて聖地への巡礼者向けにハラル対応の携帯食品を販売するなど、新たな分野での日本企業の活躍も目を引いた。

## 主要経済指標

	2017年	2018年	2019年
①人口：3,422万人（2019年）			
②面積：214万9,700万km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：2万3,140米ドル（2019年）			
④実質GDP成長率（%）	△0.7	2.4	0.3
⑤消費者物価上昇率（%）	△0.9	2.5	△1.2
⑥失業率（%）	12.8	12.7	12.0
⑦貿易収支 （10億サウジ・リヤル）	369.2	632.8	484.8
⑧経常収支 （10億サウジ・リヤル）	39.2	269.9	176.1
⑨外貨準備高 （10億サウジ・リヤル）	1,861.6	1,862.2	1,873.4
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	190,491	221,160	237,160
⑪為替レート（1米ドルにつき、 サウジ・リヤル、期中平均）	3.75	3.75	3.75

〔注〕 ⑥：サウジアラビア人のみ、⑦：国際収支ベース（財のみ）、①⑤⑦⑧⑨⑩：2019年は推計値  
〔出所〕 ①④：経済企画省総合統計庁、②③：世界銀行、⑤⑩⑪：IMF、⑥⑦⑧⑨：サウジアラビア通貨庁（SAMA）

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp